

# 萬 鉄五郎

1885(明治18)–1927(昭和2)

## 庫

萬鉄五郎は1914年に家族とともに故郷土沢に帰り、孤独な制作に没頭する日々を送ります。彼は、土沢の風景に接しながら、それを写實的に表現するのではなく自然の奥底にひそむ生命力を抽象化し、自らの造型言語におきなおして表現をおこないました。この作品は萬のそうした表現が結実したものであるでしょう。

褐色を中心とした重厚な存在感が眼を奪う作品で、随所にキュビズムやフォービズムなどの西洋美術の影響も見て取れます。